

平成27年度事業実績

(公財) 北海道肢体不自由児者福祉連合協会

北海道における肢体不自由児者の福祉の向上に寄与することを目的に、関係機関、関係団体等の支援・協力を得て各種事業を実施しました。その主なものは次のとおりである。

1 理事会、評議員会、会長・副会長会議の開催

団体運営の適切円滑化を図るため、理事会4回、評議員会2回、会長・副会長会議を適宜開催した。

2 主な事業の実施計画

(1) 療育事業

ア) 作品募集と表彰

第63回の手足の不自由な子どもを育てる運動の一環として、手足の不自由な児童生徒の作品(作文・詩、図画、書道、手芸工作)及び手足の不自由な友に贈る友情の作品(作文・詩、図画)を広く道内各学校から募集しました。応募学校は16校、作品数は466点でした。優秀作品は、平成28年2月15日から17日まで、道庁1階道政広報コーナーに展示しました。また、受賞者の表彰は当該学校において、2月末から3月上旬にかけて、当協会役員等が当該学校に出向き賞状等を伝達しました。

イ) 絵はがき等の募金

日本肢体不自由児協会主催による第63回手足の不自由な子どもを育てる運動の一環として、療育事業に対する道民の理解と支援を求め、官公庁、関係機関、学校、父母の会等の協力により、1,925,778円となりました。

ウ) 奨学金の交付

当協会に設置されている岩田・アメフト育英基金奨学生を募集した結果、応募校8校から2名応募し10名の委員により13名選び奨学金を支給しました。

(2) レクリエーション活動の振興

肢体不自由児者の社会自立と社会参加の促進などをねらいとして、当協会並びに各父母の会が共催して事業を実施しました。実施に当たり、地域住民、関係団体、学生ボランティア等との交流を通し、障がい児者への理解啓発を図る。

実施父母の会24 参加肢体不自由児者 516名 家族等1464名 合計1980名

(3) 療育キャンプ等研修事業

障がい児者の地域生活における自立支援のため、肢体不自由児者とその家族を対象に事業を実施しました。

ア) 肢体不自由児(者)療育キャンプ

在宅生活者が日常生活における適応能力や社会活動等に参加する能力を養うことを目的に、宿泊して、ゆとりのある時間の中で、医師の診察やPT等から機能訓練を受ける機会を設けました。

特に本事業には、道立子ども総合医療・療育センター、道立旭川肢体不自由児総合療育センターをはじめ各地域療育センター、各関係機関・養護学校、諸団体、ボランティアの協力得て、多くの方が参加しました。

実施父母の会17 参加肢体不自由児者 236名 家族等 703名 合計939名

イ) ボランティア・ホームヘルパーの派遣及び研修会の開催

在宅の肢体不自由児者を対象に、校外活動等を支援し、身辺自立に寄与することをねらいとして、当協会に登録(学生等)されているボランティア・ホームヘルパーを派遣しました。

また、新任ボランティア研修会を6月6日、7日、室蘭市で開催しました。

ボランティア派遣延べ 142名 (旭川、室蘭、札幌父母の会)

(4) 地域活動事業

ア) 第14回全道肢体不自由児者研究大会の開催

期 日 平成27年9月26日(土) 4階大会議室

場 所 札幌市(かでの2・7)

父母の会、関係機関・団体、一般参加者160名が参加し、3名の提言の基に意見交換を行い、課題の解決が図られました。

イ) 第48回全国肢体不自由児者父母の会連合会全国大会

期 日 平成27年9月12日(土)～13日(日)

場 所 香川県 高松市

北海道から、22名が参加しました。

ウ) 全道連北海道ブロック地域指導者養成研修会の開催

期 日 平成27年7月25日(土)～26日(日)の2日間

場 所 道民活動振興センター かでの2・7 1030会議室

全道から8父母の会、会員19名が参加し、「合理的配慮」について「講演」を聞き意見交換をしました。

エ) 父母の会会長会議(研修会)を2回開催しました。

第1回・平成27年5月26日(火)、第2回・平成28年2月22日(月)

オ) 周年記念事業が該当父母の会はありませんでした。

(5) 啓発事業

ア) 第63回「手足の不自由な子どもを育てる運動」を周知し浸透を図るため、各関係機関、団体、報道機関等へ支援と協力を要請し実施しました。

運動期間は平成27年6月29日(月)から平成28年3月11日(金)

イ) 会報の発行

当協会の事業内容及び父母の会の活動等を紹介し、肢体不自由児者に対する理解、啓発をねらいとして6回発行しました。

ウ) ホームページによる情報を提供しました。

(6) 通園施設等職員の研修事業

期 日 平成27年8月22日(土)～23日(日)

場 所 北海道立子ども総合医療・療育センター

道内発達支援センター、施設等の職員72名が参加し、「脳性麻痺の療育～評価・治療・連携～」について、研修を深めました。

(7) 悩み相談電話

障がい児者の地域生活の向上を図るため、障がい児者、家族の方々の抱える問題に電話等で対応しました。相談件数は1件でした。

3 その他

(1) 組織の拡充強化と自主財源の確保

当協会の組織の拡充強化を図るため会員及び協賛会員〔普通・賛助・特別〕の拡大に努めました。また、清涼飲料水〔自動販売機〕の設置拡大並びに「愛の絵はがき・友情の絵はがき・ゆーむとあーむのクリアファイル」等の募金活動の促進を図り自主財源の確保に努めました。

(2) 第14回全道肢体不自由児者研究大会の成功を目指して取り組みました。